



だより

— つながれ ひろがれ —

第143号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
TEL : 090-8116-4633
E-mail : info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

SDGs17 パートナーシップで目標を達成しよう

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
代表理事 桑波田 和子

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年も会員の皆さまはじめ、多様な方の当会へのご支援、ご協力をいただき、お陰様で無事に実施することができました。感謝申し上げます。

令和4年の新年を迎え、新型コロナウイルスの変異と収束が厳しい中ですが、これまで皆で智慧を出し合い、活動してきたことを踏まえ、「SDGs17 パートナーシップで目標を達成しよう」をより進められる年へ！と再認識しました。

具体的には、当会の主な事業の一つ「SDGs ちば拠点づくり」の2年目を迎え、昨年からの協議をつづけている県南地域での（仮称）SDGs ちば南拠点の活動スタート支援。併せて、令和4年度か

ら（仮称）SDGs ちば北拠点作りへ向けて、多様な方とつながり、ひろげていきます。

また、「エコメッセ 2022in ちば」でも、多様な主体と連携、協働し、SDGs 達成へ向けて気候危機回避などへの取り組みを展開し、それぞれが自分ごととして取り組むことを促せるよう、強めていきたいと思ひます。

コロナ禍が3年目となりますが、オンラインやリアルでの開催の場を重ねて、お互いに有機的につながり行動へ、皆さまとご一緒に進めていきたいと思ひます。

持続可能な社会をパートナーシップで作る！
皆さまとご一緒に歩みましょう！
ご協力、ご支援 よろしくお願ひいたします。

新しい年を迎えて

千葉県環境生活部循環型社会推進課長 角田 一洋

令和4年の新春を迎え、（特非）環境パートナーシップちばの皆さまにおかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃から、持続可能な社会づくりに関連する幅広い活動を実践されますとともに、環境学習など県の環境施策の推進に御協力いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症の影響により試練の年となりましたが、エコメッセでは、初のオンライン開催となった一昨年の経験も踏まえ、双方向交流企画やSDGs 座談会などオンラインによる新たな歩みを進めることができました。ひとえに桑波田代表理事をはじめ皆様の御尽力の賜物です。県にとっても様々な主体と協働で取り組む大切な催しであり、共に発展し続けていけることを願っています。

さて、県では昨年3月に「千葉県環境学習等行動計画」を策定し、環境学習等を推進するための

基本的な考え方や具体的な施策等を定めたところです。持続可能な社会を構築するためには、あらゆる主体が環境問題を自らの問題として捉え、連携・協働して取り組んでいく必要があります。そのためには環境学習等を通じた「行動する人づくり」が重要です。県においても各種施策に取り組んでまいります。取組を着実に広げ進めていくためには、パートナーシップによる環境活動の推進と充実を目指す皆さまの活動が大変重要となります。今後ともお力添えを賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

結びに、（特非）環境パートナーシップちばの一層の御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



ESD プログラム体験会

「オケラとトトキ」～安馬谷里山の恵みを知る！～に参加して ガールスカウト千葉県第12団 松本さやか

11月28日南房総市安馬谷において「オケラとトトキ」のプログラム体験会がありました。参加者は総勢40名です。青空のもと、安馬谷里山研究会の横山さんのガイドで里山の秋を楽しみました。

往きのバスの車中で、研究会の目標「一年中桜の咲く里山づくり」は本当なのかな？と声上がり、半信半疑でしたが、ハイキングコースの途中、やまいち堰を抜けた先に十月桜が咲いていてびっくりしました。そこはまるで春のようでした。

桜の咲いている広場で、横山さんが26年という長きに渡って里山の保全に取り組んでこられた熱い思いと安馬谷里山研究会の活動を聞きました。人の手で守られてこそその里山。一見そこにあることが当たり前のように見える自然は、まごころのこもった日々の手入れによって実現しているのだということが分かりました。また、オケラ・トトキ・ノビル・ヨモギなどの里山の恵みが食を豊かにしてくれるお話も聞きました。

本物の自然にリアルに触れる体験は、どんなプログラムにも勝ると実感しました。私自身も

2019年ESD地域リーダーとして活動していますが、ESDのプログラムに取り組む前に本物の自然の営みにじかに触れることが、SDGsへの理解を深めるのだとの思いにいたりしました。

気持ちの良い空間で気持ちよく人との交わりを楽しむことはセラピーロードの名にふさわしく、歩き終わった後は心も体もリフレッシュし、エネルギーが湧いてくるのを感じました。何より御年84歳という横山さんの若々しさに里山のもつ不思議な力を感じました。

安馬谷里山会の方々の至れり尽くせりのおもてなしに、元気をいただきました。みなさん、ありがとうございました。



横山武さんのおはなし

SDGs・ESDをひろげるための”ちば“拠点づくり事業 第4回企画運営会議の報告

12月21日、SDGs・ESDをひろげるための”ちば“拠点づくり事業の第4回企画運営会議がzoomで開催されました(参加者18人)。今回の会議は、7つの事業の進捗状況報告と今後の事業やこれからのためのフリートークということで、ぎっしり詰まった1時間半でした。

【報告】

- *SDGs ちばユース活動発表会チーム：エコメッセでの双方向企画の開催
- *学校との連携チーム：プログラム実施に向けて小中学校に訪問や相談
- *ESD プログラム公開体験会：オンライン開催11/7(オンライン開催)「生ごみリサイクル教室」、11/27(現地開催)「オケラとトトキ(安馬谷里山)」
- *ESD 地域リーダーブラッシュアップ研修会：1/29オンライン実施予定(ESD地域リーダーへ、ESDプログラム実施報告提出依頼中)
- *公開セミナーSDGs・ESD理解促進：10/3オンライン開催

*第2回拠点づくり会議：11/8にハイブリッド開催

*ちば拠点のHPの検討：12/2 Zoom会議、今後、南拠点HP案を作る

【協議】

今後に向けて、学校との連携事業として、現在あるESDプログラムを、学校、校外活動向けに編集しては？との提案がありました。学校との連携は、学校の事情等も検討が必要で、2022年度は北拠点づくり事業もスタートしますが、南拠点の実行へ向けても支援する方向です。

今後もESD地域リーダーブラッシュアップ研修会(1/29オンライン)、第3回拠点づくり会議(2/21)、ちば拠点のHPの検討(試作ページ制作中→2月の拠点づくり会議で提案)などなどを精力的に進めますので、一緒に活動して下さる方を募集です！

環パちばで活動をご一緒しませんか？

(文責：廣田 由紀江)

いちほら市民大学【環境コース】で講座を行いました

今年もいちほら市民大学【環境コース】の最終講座で、「環境まちづくりワークショップ」を、令和3年11月16日(火)、30日(火)(各2時間)に行いました(桑波田・小倉・中村)。

今回の受講生は3つのグループに分かれて、地域課題を見つけ、仲間を作り、問題解決に向けて行動計画を作り、最後に発表するという内容です。私が参加したグループは4名でしたが、居住地は住宅街・里山地域と多様で、養老溪谷、村田川、国分寺の文化財、イノシシ親子の散歩などの話題も出て、市原市の奥行のある雰囲気舞台として見えてきました。

4名+私で和気あいあいと自由に話を膨らませていく中で、資源・ごみの分別についての課題がクローズアップされてきました。ゴミの「分け方、捨て方がわかりにくい」「面倒」「インセンティブが必要」など具体的に課題をあげ、解決に向けたアクションプランを考えてくることを宿題とし、1日目が終了。

2日目は2名の参加でしたが、ワークは着々と進みました。活動テーマを「ゴミ分別をわかりやすく」とし、自分が困っている事は案外他の人も同じかもと、市民同士で教え合う手段、市への配

布物やホームページの改善提案など、アイデアはどんどん広がりました。

別のグループでは「里山活動で困っていることを手伝える」里山保全のサポート。もう一つは「住みよい町づくりのお手伝い」で、高齢になっても助け合いつながって暮らす。どれも大切で必要な内容です。

『だより140号』でも紹介しましたが、市原市は今年の3月に「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」に選定され、ますます市民・市・事業者、オールメンバーの強固な協力が必要です。今回の受講者の方々も、ワークで発揮された力を「SDGs未来都市」構築へ向けて、一緒に活躍し

ていただきたいと思います。(文責：中村 明子)



SDGs
未来都市
いちほら

「あふれるプラスチックごみ～最新情報と今後の対策～」 高田秀重先生講演会

2021年12月11日に、標記講演会(主催：我孫子市消費者の会、我孫子市)に参加しました。講師は東京農工大学の高田秀重先生です。高田先生の講演はぜひ会場で直接お聴きしたい、という希望が多いため、定員150名がゆったり入れる大きな会場で、リアルで行われました。

高田先生は、いつでもその時点での最新情報を話して下さいます。今回も、

- ①プラスチックの海洋への流入とマイクロプラスチック
- ②海洋生物によるプラスチックの摂食、取込み
- ③プラスチックに含まれる有害化学物質と生物・ヒトへの影響
- ④プラスチック汚染対策：環境と健康を守るために

という定番の？目次でしたが、内容は最新情報がぎっちり詰まっていました。

特に、プラスチックの添加剤が溶け出す影響に

ついては、2016年の千葉県環境講座では「可能性」として話されていたのですが、その後の研究により、実際に溶け出していることが確認されているそうです。マイクロプラスチックの問題は環境ホルモンの問題であることを、しっかりした実験結果を基にして強調されていました。「環境ホルモン」という言葉はこの頃あまり耳にしなくなりましたが、実は世界中に拡がっているプラスチックから、少しずつ少しずつ世界中に拡散し、人間も含む世界中の生きものの体内に蓄積されているのだそうです。本当にこわいですね。

最近の情報として、三陸沖で捕まえたウミガメの胃の中から不織布マスクが出てきた、という写真も映されました。もう海の中はマスクだらけなのでしょうか。

最後の、汚染対策では、脱炭素のことも考え、プラスチックはリサイクルではなく減らすことが必要と強調されました。

(文責：小倉 久子)

「植草学園共生の森」が学校ビオトープコンクールで受賞

(公財)日本生態系協会が主催する全国学校・園庭ビオトープコンクール2021で、横田耕明さんがリーダーで作った「植草学園共生の森」が、日本生態系協会会長賞を受賞されました。おめでとうございます!!

植草共生の森というのは、千葉市若葉区にある植草学園大学・短期大学のキャンパス内の雑木林を2012年から7年間もかけて学校ビオトープとして整備したものです。

受賞理由は3つ。

1つ目は、2ヘクタールもの広さのビオトープを作り上げたこと。広さだけでなく、生態系、生物多様性に細かく配慮されています。

2つ目は、横田耕明さんをリーダーに、地元の人たちと植草学園の学生さんたちが一緒に作り上げたこと。

3つ目は、作ったビオトープが、大学の授業や附属幼稚園の子どもや若い親御さんたちの自然体

験の場として、よく活用されているということ。どれもすばらしいことです。

2021年12月18日の「植草共生の森」ビオトープまつりに見学に行ってきました。ビオトープの中の道はきれいに落ち葉が敷き詰められて、案内板があちこちに立っています。要所要所に、現在地を記したマップとクイズ形式の説明がされていて、楽しく自然を学べます。針葉樹ゾーン、竹林ゾーン、雑木林ゾーンなど、元の里山植生が活かされていました。田んぼや小川もありました。

この日は学生さんたちによる、竹太鼓づくり、手作り絵本、クリスマスのトナカイづくりのコーナーや、ブランコ、ターザンロープなどが作られていて、たくさんのお親子が楽しんでいました。

植草共生の森での落ち葉を踏みしめながらの散策は、とても気持ち良かったです。これだけの森を作り上げた横田さんたちのご苦労に感謝しながら、帰途に着きました。(文責：小倉 久子)

参加報告 森林環境教育プログラム「LEAF」体験講座

開催日：2021年11月10日(水) 9:30~16:00

場所：船橋北部公民館及び船橋県民の森

参加者：15名

講師：LEAF ナショナルインストラクター

(特非)FEEJapan 理事長 伊藤 正侑 氏 他1名

主催：千葉県環境生活部 循環型社会推進課

駐車場のドングリの実が車にコンコンと当たる風が強い日でしたが、午前中は、公民館で座学、午後からは屋外での体験でした。

講座へ申し込み2年目に抽選に当たり、参加できました。狭き門?なようです。

参加動機は、「自然体験の場を活用し、SDGsの考え方を取り入れた研修会を通して、地域で環境教育活動を実践できる能力を有する人材を育成する」という開催目的でした。

講義は、「LEAFプログラムとは、北欧で発祥し 北欧的な学びを ベースにおいた 森林環境教育 プログラムで、北欧の林業業界が、持続可能な発展のためには、後継者や森林産業関係者を育てるだけでなく、消費者となる次世代の子どもたちへの教育が不可欠だ という考えから生まれた」とのこと。現在世界28か国で実施されているそうです。詳細は、HP:LEAF | 環境教育基金 FEE Japan (<https://www.feejapan.org/leaf/>) を参照ください。

森林の4つの側面(生態学的、文化的、社会的、経済的役割)については、里山活動を通して知っ

ていたことでしたが、明確に伝えることがポイントと改めて学びました。

参加者の、地域で里山活動を多様に広げるための視点を持ちたいとの意気込みを感じました。

午後からは、葉っぱじゃんけん、私のおすすめの木、その心は? この森のおすすめの売りは? 金額は? ...など、参加者から多様な意見が出て、新たな視点が増えました。

講座に参加した人が団体に戻り、伝え広げていくことが大事と思いました。

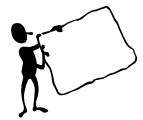


(文責：桑波田 和子)

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 62 —
おききました！ この人・この団体

NPO B-Net 子どもセンター

理事長 加藤千聖



私たち、NPO B-Net 子どもセンターは、千葉県酒々井町で大学生を中心として活動しているNPO 法人です。主な事業としては、情報支援事業、子育て支援事業、町づくり事業の3つを軸に活動を行っています。具体的に、どのような活動を行っているのかについて、上記の3つの軸の活動に合わせて、説明をしていきます。

まず、情報提供事業についてです。B-Net では、月に1度「情報誌アッタくん」という情報誌を発行しています。この情報誌は、酒々井町の小学生全員に配布する上、町内の至るところに置かせていただいています。情報誌では、B-Net が行うイベントの募集や子ども食堂の告知、酒々井町のイベント情報、町で活躍されている方へのインタビューなどを掲載しています。

次に、子育て支援事業についてです。子育て支援事業として、B-Net 子ども教室アッタくんや毎月の季節に合わせたイベント、子ども食堂の3つの活動を主に展開しています。

1つ目にB-Net 子ども教室アッタくんとは、毎週木曜日に学校帰り子ども達がB-Net に来て、一緒に宿題を行ったり、遊んだりと大学生のスタッフや地域の方と様々な遊びを通して、放課後を楽しむ事業です。晴れた日には、近くにある公園でバドミントンや鬼ごっこ、ボール遊びなど、室内遊びではピアノや折り紙、ボードゲームといったものを行うのが子ども達には人気です。

2つ目に、毎月の季節に合わせたイベントについてです。主なイベントとしては、酒々井の自然を楽しむ、4月たけのこ掘り、5月田植え、9月稲刈り、10月お芋ほり、その他にも、季節に合わせた夏のキャンプ、冬の星空合宿といったような宿泊を伴うイベントや、クリスマス、お正月といった年中行事を楽しむイベントなど、様々なイベントを1年間を通し行っています。特に、里山や畑、田んぼで行う自然を扱ったイベントでは、地域の方と協力してイベントを運営・企画しています。そのため、大学生の私たちにとっても地域の方と繋がれる機会となり、たくさんの学びの中で良い経験をさせていただいています。

3つ目に子ども食堂とは、貧困家庭や孤食の子ども達を対象とした事業であり、現在、全国各地でも展開されているものです。B-Net 子ども食堂は月に2回ほど開催しており、高校生以下の子ども達は無料で温かいご飯を食べることができます。

最後に、町づくり事業についてです。町づくり事業として、子ども夏祭りの開催、特別養護老人ホーム「エコトピア」での健康運動教室の実施などを行っています。子ども夏祭りとは、子どもが主役の夏祭りです。子どもスタッフを募集し、準備・当日の運営・片付けの一連の流れを子ども達で行います。実際に、当日子ども達は、屋台の運営、ステージ司会、ステージで発表などを行います。また、健康運動教室では、「エコトピア」さんを月に1度訪れて、頭を使ったゲームやタオル運動などの健康運動を、約1時間にわたり指導を行います。利用者さんも毎回の教室をとっても楽しみにしてくださっていて、私たちも楽しい時間を過ごさせていただいています。

上記に述べたように、B-Net 子どもセンターでは、様々な活動を幅広く行わせていただいています。現在、新型コロナウイルスの影響で思うように活動ができずにいますが、理事長をはじめとして、大学生が主体となって活動している団体ということもあり、とても活気があり、仲良く活動をしています。今後も更なる発展ができるよう、楽しみながらも精一杯頑張り、活動を行っていきます。



運営会議報告

12月度運営会議

12月9日(木) 9:00~11:00

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・いちほら市民大学(環境コース)終了 11/16
- ・地球環境基金事業ヒヤリング 11/22
- ・印旛沼環境基金事業 ・地球環境基金応募
- ・ESD 全国フォーラム2021 特設サイト応募
- ・第3回理事会開催 11/29
- ・だより 142号印刷・発送
- ・ESDプログラム公開体験会開催 他

【協議】

- ・ちば環境再生基金事業 ・だより 143号
- ・次回理事会開催日検討 ・印旛沼環境基金事業
- ・その他

1月度運営会議

1月13日(木) 20:00~21:30

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・第4回企画運営会議開催 12/21
- ・エコメッセちば運営委員会 1/6
- ・「全国学生SDGsフォーラム in ちば」打ち合わせ 12/22
- ・SDGs事業 ESDプログラムについて 他

【協議】

- ・だより 143号進捗状況
- ・ちば環境再生基金事業
- ・次回理事会開催日検討 1/26 3/22
- ・ちばSDGsパートナー登録制度(千葉県)
- ・千葉大ISO Chiba Winter Fes 2/13
- ・定例会開催 2/10 他

お知らせ

全国学生SDGsフォーラム in ちば ~2030年に向けた学生の集い~

【テーマ】2030年SDGs達成に向けて全国の学生が集まりアクションを考えるフォーラム

【目的】全国の学生が繋がることでSDGsの関心を高める。

【開催日】2022年3月12日(土) 13:30~17:00

【場所】千葉市生涯学習センター小ホール
(千葉駅徒歩10分)

【開催形態】オンライン・オフライン併用
オンライン 100名/会場 40名

【募集対象】高校生・大学生・ユース活動支援者
(県内及び全国)

【参加費】無料

【プログラム】・学生団体から活動発表
・今後の活動提案
・全国アクションプランの検討

【主催】特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

【協力】学生団体おりがみ、Pando

【後援】千葉県、ESD活動支援センター(申請中)

★参加申し込み方法などについての詳細は、環ぱちばHP：<https://kanpachiba.com>をご覧ください。

申込み・問い合わせ：entry@kanpachiba.com

※ちば環境再生基金助成金事業の助成を受けて実施

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633 E-mail : info@kanpachiba.com

ホームページ：<https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記HPでご確認ください。